

## 研究結果

私は中国において日本の『六国史』の整理出版を計画した。その第一歩として、まず『日本書紀』と『続日本紀』の整理出版をする。

本研究は吉川弘文館出版の国史大系『日本書紀』と『続日本紀』を底本、岩波書店出版の注釈本『日本書紀』と『続日本紀』をはじめ、宮内庁書陵部本『日本書紀』など諸本を参考して校訂した。

日本の研究者が校勘した『日本書紀』と『続日本紀』の校勘本に依拠して、新たに校点を行った。その上、万葉仮名で書かれた古代の歌謡や宣命体の勅令などを日本学者の研究と解釈の成果を取り入れて、書き下し文に翻訳した。

中国および高句麗・百濟・新羅・加羅（任那）諸国に関する記載については、中国史料として各時代の正史及び『冊府元龜』・『資治通鑑』・『唐会要』など、朝鮮史料として『三国史記』・『三国遺事』・『東国通鑑』など、膨大な古代史料を調べ、関連記事を抽出した。そして、中国、日本、朝鮮の史料を比較して文献批判を行った。それを通して、各種の記事の異同を示し、十分な証拠によってその正誤を明らかにし、文献の訂正と考証をした上、各史料の年代を定めて、『日本書紀』『続日本紀』の当該年代のところに附録として添える。それによって、『日本書紀』『続日本紀』史料の原典や源流を明らかにし、比較研究を可能とさせる。そして、古代東アジアを一つ完結的な世界として研究する全般な史料を提供する。

本研究の成果は中国において最も有名な出版社により出版する。その最大の意義は今後中国の日本古代史・中日関係史研究のために史料の基礎を定めることにある。特に日本古代史基本史料が出版されていない中国では、大きな役割を果たすに違いない。これは中国の研究者にとって必須の研究基本史籍となるだけでなく、同時に日本の研究者にとっても比較研究の参考文献となる。

時間の関係で、研究成果の吸収や、史料の付録にはまだ不十分なので、これからは改訂して出版する予定です。

## 研究成果の公表について（予定も含む）

口頭発表（題名・発表者・会議名・場所等）

「中国浄土宗在日本の流伝与発展——以『日本書紀』為中心」、韓昇、第二回中国弥勒文化学术討論会（2007年12月）、浙江省奉化市。

「冊封・羈縻と朝貢」、韓昇、関西大学アジア文化交流センターでの講演（2008年7月）、大阪。

論文（題名・発表者・論文掲載誌・掲載時期等）

『日本書紀』的編纂及其史料価値、韓昇、中華書局（中国北京）、2009年発表予定。

『続日本紀』的編纂及其史料価値、韓昇、中華書局（中国北京）、2010年発表予定。

書籍（題名・著作者・発行時期等）

『日本書紀』、韓昇点校、2010年出版予定。

『続日本紀』、韓昇点校、2010年出版予定。